

寄書

水彩畫に志せし最初の動機

福岡 穉博士

私は元來圖畫と習字とは極不得手て、尋常小學校以來高等小學校頃迄は何時も點數が非常に悪いので、其れが爲め好成績を得ることの出来ない位でした。中學に入校致しました時。圖畫兼習字の教師の常に教へられましたには、習字圖畫もある程度迄は勉強一つて進むことが出来る、某氏の如き初め字は下手の方であつたのが勉強の結果只今にては日本の大家を以て目せらるるに至つたなど申して、大に勵まして呉れたので、私も一つやつて見様と云ふ氣になり、時を定めて之れ等の練習をやりましたが、何がさて習字は生來の不得手と見へて長く續きませんでした。然るに圖畫の方は、練習中に趣味を感じて來まして、少しづつ續けて居る中に點數も増して來るので、だん／＼面白くなつて來ました。此の時は鉛筆畫でしたが、丁度中學三年級の時に水彩畫を極く好きな友達と一處に下宿する様にな

りました。其人が臨本ではありましたが甘く畫くので、私もつい釣り込まれて描いて見様と思ひ、大分熱心にやりましたが、田舎は仕方のないもので、耻かし乍ら其時迄は肉筆の水彩畫を見た事はありませんし、水彩畫の如何なるものなるかは全く知らず、鉛筆畫手本中の繪を色どる位に過ませんでした其うちに水彩畫の榮を得て臨本の弊寫生の徳を説明され、又自然を手本とすべしなる語を見まして大に感ずる所があり、寫生の眞似方の様なものでしたが随分一生懸命にやりました、そして其趣味は中々臨本の及ぶ所でない事を知るに至つたのです。其頃寫生畫三枚を教師に差し出した所が、不思議にも最高點を呉れましたので大に力得を、又益々面白味を感じ、熱心に畫く様になりました、只今も(高等學校在學中)大なる樂として、暇さへあれば畫いて居ます。

畫を學びたる爲に得たる顯 著なる利益

石見 孤屋生

畫を學んだために得たる著しい利益としては、植物の試験に應用の才がきけたのと、

修業旅行の作文をするのに、スケッチブックから面白い材料を取り出した等である。又事物を觀察する力が密になつたり、劣等なる情緒の發したる時に、畫の爲に、これが唯一の慰藉者となつて呉れたなどは、畫を學びたるために得たる顯著なる利益と云つても敢て差支へはあるまい。斯かる事は恐らくは僕一人でもあるまいと思ふ。

紙面がせまくつて諸君から送つて下さつた澤山の寄稿を載せるとが出来ません、いづれ機を見て、御寄送の繪と文章で別に小冊子でも出しますから、面白い趣味のある論説、意見、美文、小品文、詩歌のやうなもので、水彩畫に關したものを御送り下さい。

○卷首の石版畫はカッシャア氏の筆で和蘭陀の漁業地を描いたものです。人物と風景の調加を見るに適當と思ひましたから、製版が困難で失敗の恐れがありました。が、試に口繪とする事にしました。

○月の出の寫眞版は、今春費府のオートグラフに出品された、米國畫家の新作であります。